


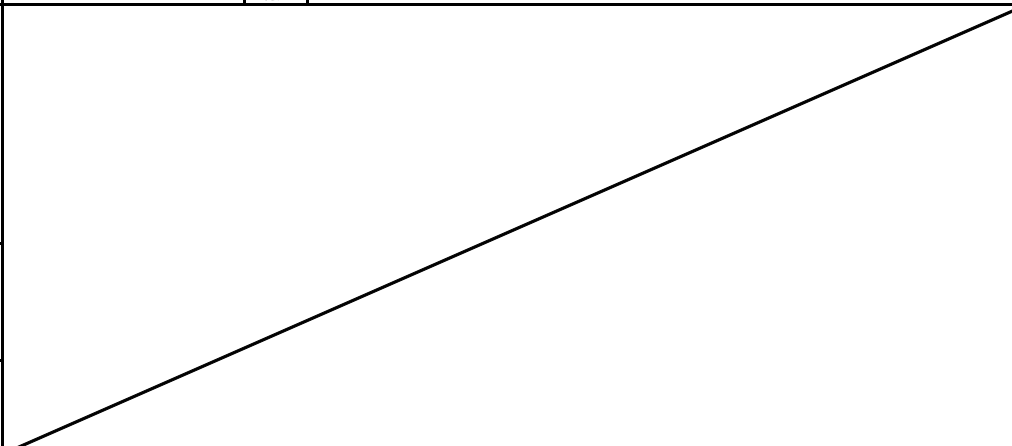


未来の福島県知事選挙 候補者アンケート



立候補者に今回の争点（「福祉政策」、「教育政策」、「労働政策」）についてどのように考えているかアンケートしました。その結果と「私が感じた良い点・悪い点」を簡単にまとめましたので、グループで話し合ってみましょう！




1. 福祉政策についてどんなことに取り組もうと思っているか

候補者	回 答	候補者	回 答
 滝田 はやと	<p>企業内保育所の設置と保育士の給与を上げます</p> <p>企業内への保育所の設置を進め、保育所への送迎や子どもの急病などへの対応をしやすくし、保護者を働きやすくします。企業が保育所を設置することが難しいことの原因の一つに人手不足があります。人手不足を解消するため、保育士の給与を国の補助と県独自の補助合わせて5%分アップさせます。</p> <p>良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 親が働きやすくなり労働者数が増える ○ 潜在保育士が保育士として働ききっかけになる <p>悪い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県独自の補助で大きな費用がかかる ● 保育士給与を上げても企業が設置するとは限らない 	 小林 しの	<p>スクールカウンセラーを増やし不登校やいじめを減らします</p> <p>児童・生徒の不登校やいじめなど様々な相談に対応するスクールカウンセラーを増やし、県内全ての小学校、中学校、高校に設置します。いじめや不登校の件数は増え続けており、学校現場からの声もあることから、実施する必要を強く感じています。スクールカウンセラーになるには資格等が必要です。そのためスクールカウンセラーになりたい人を県で働くことを条件に支援します。</p> <p>良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちが相談しやすい環境を作ることができる ○ 教員の長時間勤務対策にもなる <p>悪い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資格取得の支援をしても実際にはならない人もいる ● いじめや不登校がすぐに減るとは限らない
 斎須 紳也	<p>虐待に関する親への教育を行います</p> <p>虐待の件数は増え続けており、虐待を主に行う方の約8割が実の両親であることがわかっています。親が虐待をする原因の一つに子育てに関する知識不足があります。そのため妊娠中・出産後に継続的に医師による指導を行い、その後も両親向けのセミナーを行います。こうすることで正しい知識の下、子育てをすることができます。</p> <p>良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 出産前から知識をつけることができるため安心して出産に臨める ○ 虐待についてどうしたらよいか親だけで悩まずに済む <p>悪い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事前指導やセミナーを拒否する人には効果がない ● 知識があってもストレスなどで虐待をする人もいる 		

2. 教育政策についてどんなことに取り組もうと思っているか

候補者	回 答		候補者	回 答	
 滝田 はやと	全ての高校に自習室を設置します 自宅では学習に集中できない方や図書館などの公共施設が遠くにあり利用しづらい方がいると思います。そこで全ての高校に自習室を設置し、学生の皆さんが快適に学習できる環境を作ります。効率良く学習できるよう放課後1時間は先生への質問をOKとします。また、この政策は少子化による空き教室を有効利用することができ、新たな自習室を建設することがないのでお金がかかりません。お金をかけずに快適な学習環境を提供します。		 小林 しの	大学・専門学校の体験教室を開きます 現在、福島県の高校生で県内の大学等に進学する人は約2割ととても少ない状況にあります。そのため県内の大学や専門学校の魅力を高校生に知ってもらうため体験教室を行います。オープンキャンパスは1日、2日程度のところが多いですが、数日間に渡って研究室を訪問したり大学生等と交流をする時間を設けより深く知ってもらえる機会を作ります。大学や専門学校に対しては県がPRや準備の支援をします。	
	良い点	<ul style="list-style-type: none">○ 塾の自習室や有料の自習室を使用する必要がない○ 他の利用者を見ることで学習のモチベーションが上がる		良い点	<ul style="list-style-type: none">○ 県内進学者を増やし、流出による人口減少を減らす○ 県が支援することで大学・専門学校の規模に関係なくPRすることができる。
	悪い点	<ul style="list-style-type: none">● 教員の長時間勤務を助長するおそれがある● 冷暖房などの光熱費がかかる		悪い点	<ul style="list-style-type: none">● 大学・専門学校側に県内全ての高校生を体験させられる余裕がない● 人気のある大学・専門学校に偏る可能性がある
 斎須 紳也	県内の様々な職業を体験できる施設を作ります 高校卒業後3年以内に、10人に4人の方が仕事を辞めています。理由は労働条件や仕事が自分に合わないからと言われていいます。そこで、県内の様々な職業を体験できる施設を作ります。この施設は、県内の企業と連携することで本格的な設備や道具を使って実際に働いているような体験ができる施設とします。この施設により学生が職業に対する興味を持ったり、理解を深めたりして自分に合った職業を見つけられるようにします。				
	良い点	<ul style="list-style-type: none">○ 学校ではできない本格的な職業体験ができる○ 仕事が合わないからと仕事を辞めてしまう人が減る			
	悪い点	<ul style="list-style-type: none">● 全ての県内企業が参加できるわけではなく不公平● 体験施設を作るには巨額の費用がかかる			

3. 労働政策についてどんなことに取り組もうと思っているか

候補者	回 答		候補者	回 答	
 滝田 はやと	フレックスタイム制度の導入を促進します フレックスタイム制度とは、自分の生活に合わせて働く時間の始まりと終わりを自由に決めることができる制度のことです。働いている人へのアンケートによると、この制度を利用してみたいと答える方が約4割もいます。この制度が導入されれば、保育所等への送迎が楽になったり、家族との時間が増えます。実際に運用するには企業の制度に対する理解が必要ですので、企業向け説明会の開催やアドバイザーの派遣を行います。		 小林 しの	女性活躍のための場面別セミナーを開催します 福島県内企業の女性管理職の割合は約12%であり、女性の活躍があまり進んでいません。この原因の1つに、働く人の女性活躍に対する理解が深まっていないことが挙げられます。正しい理解をしてもらうため県が講師を務める人生の場面別セミナーを4種類行います。4種類とは働き始める前、働き始めたとき、結婚したとき、管理職になったときです。これらの人生や仕事において重要な場面で女性活躍について考える機会を作り、効果的にその大切さを理解してもらいます。	
	良い点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 柔軟な働き方ができストレスが減る ○ 時間の制約で働くことができなかった人が働き始めることができる 		良い点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1回だけのセミナーで終わらないため理解が深まる ○ 女性活躍が進めば福島県全体が活性化する
	悪い点	<ul style="list-style-type: none"> ● 一定の時間拘束されるような職業では導入が難しい ● 制度の導入や勤務の管理が難しい 		悪い点	<ul style="list-style-type: none"> ● 理解を深めるには時間がかかるため、直ちに女性活躍を直ちに実現できるわけではない ● 男性への逆差別を助長しかねない
 斎須 紳也	テレワークを導入し働きやすくします テレワークとは、インターネットを利用して自分の好きな場所や時間に仕事をするという働き方です。例えば会社に出勤せずに家で仕事をすることができます。アンケートによると導入した約8割の方が家族との時間が増えたと答えています。この制度は企業にとってもメリットがあります。現在約6割が人手不足を感じていますが働きやすくなれば人材の確保がしやすくなるのです。県としては導入のために説明会を行ったり、導入した企業を働きやすい企業として認定するなどのバックアップを行います。				
	良い点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家で仕事ができれば通勤の負担が減る ○ カフェや出張先でも仕事ができ効率が良い 			
	悪い点	<ul style="list-style-type: none"> ● 導入は企業が決めることであり県が促進しても限界がある ● インターネットを利用するため情報が漏れたりサイバー攻撃に遭う危険性がある 			